

杉山登志 CMディレクター。テレビCM制作のジャンルを開拓、次々受賞して天才といわれるも、絶頂のなか自殺した。

すぎやまとし

二二六事件・1936 = 日本植民地だった朝鮮北部ロシア国境近くの陸軍官舎で、次男に生まれる。本名杉山登志雄。
日中戦争始・1937 = 1歳 妹が誕生。5つ上に兄、4つ上に姉がいた。
第二次大戦始1939 = 3歳 父杉山多一は静岡県沼津の造り酒屋出身ながら、早大の建築学科を出て、陸軍の建築技師となって各地を転勤するも、士官並みに優遇され、母も青森県弘前の呉服屋出身という比較的裕福な家庭で、
日米開戦・1941 = 5歳 この頃、父の昇格に伴って、一家で東京に戻るも、翌年には父の転勤で福島に移り、水引や盆栽の細工が得意で百貨店のショウウィンドウに飾られるほどの腕前だった母から芸術的センスを受け、絶対に嘘のつけない父のもと、口答えもできない厳しい環境で、
創価学会検挙1943 = 7歳 さらに、父が本土防衛の拠点となる軍都立川に配属となって、一家で移住し、小学校に入学。
敗戦・1945 = 9歳 空襲を受けるなか、次の弟が誕生。5人の子をかかえ、敗戦後、株木組立川出張所長となり、米軍関連の仕事で芸者呼んでの宴会ばかりで家には金を入れない父の姿を見てか、自らの育ちは一切語らない、親戚づきあいや写真を撮られることも嫌う自閉症的な性格に育ち、

三大事件・1949 = 13歳 途中何度か名が変わった立川の小学校を卒業。米兵相手の店が立ち並び、娼婦の闊歩する環境を避けるべく、一家で中野に移住するが、自らはまたも安住の地を失った思いのなか、三鷹の大成学園中学に入学、
独立回復・1951 = 15歳 大成学園高校に進む。この頃から自殺を口にするようになる。
メデー事件・1952 = 16歳

自衛隊発足・1954 = 18歳 父が株木組取締役営業部長に。

55年体制始・1955 = 19歳 卒業し、日本大学芸術学部美術学科に入学。

なべ底不況・1957 = 21歳 父が株木組の同族会社に出向し常務取締役となる。絵本野上龍雄「人形げき・かげえしばい」の絵と、

イヌカトマ・1958 = 22歳 平塚和夫「雲のはなし」の絵を描く。卒業とともに、入社、登志と名乗るようになる。

安保闘争・1960 = 24歳 絵を携えて私淑する画家永田力を訪問、以後、居候のように入り浸る。以後、伊庭と永田を鏡に生き、

ワイルド病始・1961 = 25歳 文化シヤッターのテレビCM「三匹のこぶた」を皮切りに、ディレクターとしてCM制作を取り仕切り、

全国総合計画1962 = 26歳 「森永製菓「チクレガム」のCMが第1回ACC・CMフェスティバル銀賞となり、

TV宇宙中継始1963 = 27歳 「資生堂ファッションペイル サイコロ」で第10回カンヌ国際広告映画祭テレビCM部門銀賞し、日本のCM初の国際賞の快挙。ACC賞会長賞にも輝いて以降、

大学紛争始・1965 = 29歳 「資生堂チェリーピンク 口紅」でACC・CMフェスティバルのグランプリ、国際広告映画祭劇場部門金賞、アジア広告会議劇場部門アイデア賞。「資生堂スペシャル口紅・プレストパウダー」は、国際広告映画祭銀賞、ACC賞金賞、アジア広告会議アイデア賞・音楽賞・演出賞。

いざなぎ景気1966 = 30歳 「資生堂ビューティケイク プロログ」で、IBA国際部門優秀賞、全米TVCMフェスティバル国際部門優秀賞、アジア広告会議優秀賞。

美濃部都知事1967 = 31歳 「資生堂サンオイル 活」で、ACC賞銀賞、広告電通賞第二部門賞、IBA国際部門優秀賞。「日産自動車フェアレディ2000」で、アジア広告会議グランプリ、国際TVCMフェスティバル劇場部門銅賞。雑誌{宣伝会議}に同誌のCM広告月評に対する怒りの抗議文、{話の特集}にエッセイ「王様と私」。

電ケ関ビル・1968 = 32歳 「資生堂サンスクリーン ミニレディ」で、IBA国際部門優秀賞、ACC賞銀賞、広告電通賞第三部門第二位。この年までに、800本近くのCMを手掛け、上記のほかにも多くの賞を得る一方、自らを鼓舞するかのようになり、翌年にかけて、{コマーシャル・フォト}にCM作法の講座を執筆。

全共闘ビーク・1969 = 33歳 「資生堂ピンクパウワウ口紅 インディアンルック」で、国際広告映画祭劇場部門金獅子賞、全米TVCMフェスティバル優秀賞、広告電通賞カラー部門第二位、ACC賞劇場部門アイデア賞・アート賞。資生堂バーラーの受付をしていた女性と結婚し、完成したばかりの港区赤坂のマンションに入居するも、

大阪万博・1970 = 34歳 離婚。「資生堂サンオイル サンアップ」でACC賞、全米TVCMフェスティバル国際部門優秀賞。

ドクショック・1971 = 35歳 「資生堂ナチュラルグロウ 四十階のパーティー」で、全米TVCMフェスティバル国際部門優秀賞、ACC化粧品部門秀作賞・照明賞。

日中国交回復1972 = 36歳 「モービル石油 旅立ち」で広告電通賞輸送機械部門賞。月刊{TVCF映像の世界}のインタビューに応じるが、アーティストになることを拒み続けてきた自閉症的な性格に鬱病も併発してか、

石油ショック1973 = 37歳 「資生堂シフォネット 図書館」で、国際広告映画祭銅賞、全米TVCMフェスティバル国際部門金賞、ACC秀作賞したのを最後に、傍目には絶頂のさなか、赤坂の自宅マンションで首吊り自殺した。'リッチでないのにリッチな世界など分かりません。ハッピーでないのにハッピーな世界など描けません。夢がないのに夢を売ることなどは.....とても.....嘘をついてもばれるものです'の遺書も語り継がれる。